



WTクラスのライバル達

エムエスレーシング.com
#43「ニンジャ250R」



千葉県市川市のバイクシヨップ「MSレーシング」が母体のチーム。ベース車両のニンジャ250Rはマフラーやフェンダーレスキット等、自社ブランドのパーツで固めた。決勝はニンジャ勢で2位の好ポジションでフィニッシュ。

ハウスロッカース&アソートR
#50「VT250FG」



終始上位を走行、あわや表彰台というところまで来ていたが、2回目のフルコースコーション時に追い越し禁止ペナルティをとられピットストップ、直後にガス欠となつてしまい涙を飲んだ。それでも7位入賞はお見事。

CLUB WITHME250
#15「VT250スパーダ」



今回多く参戦したニンジャ勢に対するVT勢は、その燃費の良さが最大の武器。設計が古いマシンながらも、もて耐の特徴である長い時間のピットイン回数をどれだけ減らせるかで勝負した。決勝は34位を獲得。



で若干の転倒があったものの、その後は草レースらしく比較的和やかな雰囲気で行進していった。サクセス&KTSは、1回目のピットイン時に異常があったフロントタイヤを交換した以外、順調な周回を重ねていった。ちなみに、もて耐での給油には必ず5分以上のピットストップが課せられている。つまり、ラップタイムよりも燃費走行の方がより重要であり、ここが鈴鹿8耐のようなスプリントレース的な耐久レースとの最大の違いといえる。ニンジャ250Rのライバルとなるのは同じWTクラスのホンダVT250シリーズ。並列2気筒エンジンのニンジャと比べVツインエンジンのVTは燃費性能で勝っており、レースでも上位を占めた。それでも常に上位ポジションを確保していたサクセス&KTSだが、10位以内でのフィニッシュが見えていた終了間際、立て続けにコース上で起こったアクシデントによりフルコースコーション。ベースカーが入る事態が発生し、このタイミングでまさかのガス欠。転倒もなくマシントラブルもなく、中盤には華麗な追い上げを見せ、あまりに順調だったとはいえず、7時間経過まであとわずか5分というところでの運命のいたずらだった。だが、これは草レース。敗因とかを追求するのは無粋なのだ。優勝は150CCエンジンを搭載したオリジナルマシンでエントリーしたチームイワキだったが、燃費に勝るVT勢を相手に終盤まで互角以上のスピードと信頼性を見せていたニンジャと、耐久レース初挑戦で各々の役割を立派に果たしたスタッフにこそ最大の賞辞が贈られるべきであろう。表彰式が終わわり、夕暮れの中ピットで片づけをするスタッフ達は精一杯頑張り、楽しんだ結果だからだろうか、精々としてまだ遊び足りないかの様だった。彼らの「来年」に期待せずにはいられない。

